

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-2-3 農林水産業の担い手の確保・育成
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農村整備課長 中藤 直孝	電話番号	0852-22-5176
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	ほ場整備事業		
目的	(1) 対象	担い手農家等	
	(2) 意図	担い手農家等の経営等農用地面積を拡大させるため、農地利用集積を促進し、安定した経営体として発展させる。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 経営体育成基盤整備事業（担い手へ作業効率の良い農業生産基盤を提供するため、担い手等の経営規模を拡大する計画のある地区に対して、有利な国庫補助事業を利用して農業生産基盤を整備する。） 県営中山間地域総合整備事業【生産基盤整備】（中山間地域の持続的発展のため、整備要望のある条件不利地域の農業生産基盤に対して、有利な国庫補助事業を利用して整備する。） 経営体育成促進事業（基盤整備事業費負担を軽減するため、生産基盤整備を実施する担い手農家等に対して、有利な国庫補助金を利用して促進費を交付する。） 		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	担い手農家等への農地利用集積率（計画期間中に完了する経営体育成基盤整備事業実施4地区での累計）	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	農地利用集積率＝農地利用集積面積/地区内農用地面積	目標値		0.00	12.00	
			実績値	0.00	32.00	66.00	66.00		
			達成率		0.00	550.00	82.50		%
指標名	ほ場整備面積	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		68.00	140.00	184.00	228.00		ha
式・定義	計画期間中に実施する経営体育成基盤整備事業及び中山間地域総合整備事業実施地区での累計	実績値	0.00	92.00	175.00	246.00			
		達成率		135.30	125.00	133.70		%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	2,957,622	2,236,961
うち一般財源(千円)	130,463	75,949

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	①順調に進んでおり課題がないため検討していない
---------------------	-------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

ほ場整備事業では、担い手となる生産者の経営改善と安定化に向けた支援として、生産基盤であるほ場の整備を実施しており、区画の拡大と道水路の改良による営農経費削減を実現している。
ほ場整備を契機に設立された営農組合では、大型機械での営農が展開されつつあり、先進地区では営農に係る労働時間が70%以上短縮、営農経費では60%近く軽減されている地区も存在する。また、平成26年度末の県内611の集落営農組織のうち約90%は、ほ場整備実施地区での設立であり、ほ場整備は安定した組織営農の基盤となっている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

成果参考指標としている、平成26年度末のほ場整備面積が目標の184haを大幅に上回る246haを達成した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

成果参考指標としているほ場整備面積は目標を上回ったが、農地利用集積率は、平成26年度末で目標の80%を下回り66%となった。

②困っている状況が発生している「原因」

平成26年度から設けられた農地集積に対する集積協力金の支援について、関係者への説明及び調整が必要となり、集積に遅延が生じた。

③原因を解消するための「課題」

新たな集積協力金の支援も視野に入れた、地域に即した営農形態に関係者と共に作りあげていくことが必要である。なお、集積協力金について関係者との調整が整ったため、平成27年度には農地利用集積率の80%を達成する見込みである。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

島根県のほ場整備率（区画面積30a以上）は、平成23年度実績の全国平均63.2%に対し45.5%であり、依然として整備が遅れた状況にある。整備の遅れは、農地集積の支障となり、農業就業人口の減少及び高齢化と相まって、耕作放棄地の発生原因となることから、さらに整備を進める必要がある。平成28年度以降の整備に必要な予算を、当初予算として確保できるように国に要望すると共に、整備コストの縮減に努める。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）